

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3271400404		
法人名	雲南福祉サービス株式会社		
事業所名	グループホーム加茂の郷(ツツジユニット)		
所在地	島根県雲南市加茂町南加茂706-4		
自己評価作成日	令和3年9月21日	評価結果市町村受理日	令和3年12月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 2/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43番地		
訪問調査日	令和3年10月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その人らしい生活を送って頂けることを一番に考え、個々の思いを大切に、ケアプランの作成を行っています。そのために、生活歴、心身の状態、好みや楽しみの把握に努め、実践しています。利用者一人一人に合った支援ができるように、個々の利用者様の手順書の作成をし、ケアの統一を図っています。
 コロナ禍ではあるが、ご家族との関係を継続していけるようご様子を電話やお便りでお知らせし、お便りには写真も添えています。電話やZOOMでご家族と交流が出来るよう支援をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の尊厳を重視し、会議やモニタリングを通して全職員でケアの振り返りを行いながら理念に沿った支援の実践に努めている。利用者のこれまでの生活や思いを尊重した個別な介護計画を立てて支援し、毎日の記録用紙には一人ひとりのケアプランを記載し評価をするように工夫している。現在コロナ禍で家族や外部の人との交流は制限せざるを得ないが、毎月送るたよりは大きな写真を添えて送り、ZOOMを利用するなどできることを行っている。地域の祭りの花火は今年も中止されたが、8月にはグループホーム合同で駐車場にて花火大会を行った。職員は人員不足を互いに補いながら協力して利用者の生活を支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関、会議室の見えるところに掲示されている。理念を基に事業所の方針を決定し、実践に繋げられるよう話し合いを行っている。	理念を基に方針を立てて実践している。会議では毎回話し合い、職員はケアプランや日々の支援が理念に基づいていることを認識し実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	食材は地域の商店で購入。行事の際のお弁当を地域の店でもお願いすることもある。地域の方を招いて行う行事はコロナ感染予防の為に中止したが、行事は継続、利用者の楽しみに繋がるよう努めている。	現在、ボランティアや行事を通じた交流はできないが、毎月発行しているたよりで活動を知らせ古布の協力を呼びかけるなど発信をしている。食材は地域の店から購入している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて日々の活動状況、認知症の対応等お話をさせて頂き、理解をして頂いている。委員には、地域の方、ご家族、地域包括支援センター、広域連合の方に出席して頂いている。今年度は、実施出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度も運営推進会議は、コロナ感染予防の為に開催していない。今後状況を見ながら開催を検討していきたい。	現在、コロナの感染予防のため会議は開催していない。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	情報交換を行い、協力関係が築けるよう努めている。	コロナや入退去に関する問い合わせなど必要に応じて情報交換を行い、助言や情報提供を受け協力して取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年1回研修を実施。利用者の安全を図る為やむを得ず身体拘束を行っている方はある。経過観察の記録をし、毎月会議で廃止に向けての検討を行なっている。3か月毎に身体拘束廃止委員会を開催している。	定期的な会議や研修を通して全職員が身体拘束の内容を理解し取り組んでいる。センサーマットはグレーゾーンと捉え、広域連合にも相談し該当事項から外し家族にも説明した。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	リモートで研修を受講。合同会議でも研修を行った。言葉遣いや対応について話し合い、ケアの振り返り、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年1回苑内研修を実施している。日常生活自立支援事業、成年後見制度を利用されている方があり、実践を通して学びがある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、主任で行っている。ご家族と充分な話し合いに努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱、苦情相談窓口を設置している。外部にも苦情相談窓口があることを説明している。ご家族には、来苑時や電話にて意見、要望を聞くようにしている。	家族の訪問時や電話で意見を聞いている。現在面会は制限しているが、利用者、家族の思いをくみとりサービスの向上に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や面談で意見を聞き、反映できるように努めている。	管理者は日頃から職員の意見を聞くことに努め、休憩や退勤時間、記録の時間などにも配慮し、働きやすい職場づくりに努めている。職員は気づいたことを伝え、「何でもノート」を活用している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の働く条件に対応している。人事考課の取り入れ、表彰制度等、職員の意欲向上、レベルアップなど向上心を持って働ける職場づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベルアップに繋げるため、外部研修を受ける機会を設けている。又月1回の事業所の会議にて学ぶ機会を設けている。今年度はコロナ感染予防の為、リモートでの研修も取り入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH・小規模多機能部会にて他施設実習、研修会、親睦会等交流の場があるが、今年度はコロナ感染拡大防止の為、実施されていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人、ご家族と面談の機会を設け、情報収集を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と面談の機会を設け、要望等に耳を傾け、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に調査を行い、グループホームでの生活が適切か、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人の出来ることを把握し、一緒に行い、暮らしの支援に努めている。お茶や食事と一緒に摂り、関係づくりをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の、面会制限をされており、ご本人の様子を電話や毎月のお便りに写真を載せ、伝えている。ご家族と電話やリモートでお話ができるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出を制限しており、これまでと同じようにはいかないが、話題に取り入れるようにしている。	家族には毎月たよりに写真を添えて様子を伝え、電話や可能な人にはZOOMを使用し関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性の把握に努め、席の位置に配慮したり、一緒に家事をして頂いたり利用者同士の関係づくりを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も必要に応じて相談に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いに耳を傾け、その人らしい生活が送れるよう努めている。ケアプランに反映し、実践している。	利用者のこれまでの生活を知りその人らしく過ごしてもらえるように、利用者から話を聞いたり関係者から情報収集を行い、ケアプランに反映させて支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族、ケアマネ、入居前の施設より情報収集を行い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の日々の様子を観察し、現状の把握をしている。連絡ノートを活用し、職員同士情報の共有をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族、ご本人の意向を聞き、プランに反映させている。毎月の会議にてカンファレンス、モニタリングを行い、計画作成をしている。	計画作成者が中心になって利用者や家族の希望を聞きこれまでの生活や思いを大事にして介護計画を作成している。毎日プランに沿って評価し、会議やモニタリングで情報を共有し全職員が統一したケアを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に日々の様子やケアの実践、ケアプランの評価を記入している。職員間で情報を共有しながら実践している。ケアプランは3カ月毎または状態が変化したときにも見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在は行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染拡大防止の為、地域のボランティアとの交流の機会は持っていない。桜の名所などへドライブの機会を作り、楽しんで頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医の継続にて、受診や往診を行っている。主治医へ状態報告、相談を密に行い、関係づくりに努めている。自立支援制度や在宅療養後方支援を活用する事で、連携を図り適切な医療を受けられる様支援している。	利用者、家族の希望するこれまでのかかりつけ医を継続し、協力を得て定期的な訪問診療や受診の支援をしている。できる限り受診に行けるようにしているが、難しい時は状態を報告し内服処方をしてもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態を看護師へ報告、相談を常にし、看護師から指示を仰ぎ、早めの対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際、病院の相談員やご家族とこまめに連絡を取り、状態把握に努め、職員同士の共有を行っている。入院時に医療連携シートを作成し、病院へ情報提供を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、ご家族へ終末ケアについて説明をし、ご家族の意向を聞くようにしている。利用者の状況に応じて、都度ご家族と話し合いをするようにしている。	入居時に事業所でできることを説明し、状況変化に合わせて話し合いを行い家族の希望を尊重し対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度は、コロナ感染予防のため、救命救急講習を受けていないが、毎月の会議で急変時の対応シュミレーションを行い確認し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルは作成している。災害時の訓練についても今後検討していく考えである。備蓄等確保をしている。火災時の避難訓練は年2回実施。	年2回、火災訓練を実施している。実際に停電をしたことで必要なものがわかり保冷材や延長コード、ランプの数を増やし準備をした。停電時、近くの企業から発電機を借りた。中庭周囲は避難路にもなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや声の大きさ等に配慮している。職員一人一人が意識するよう、休憩室、ロッカー等数力所に言葉の言い換え表を掲示している。また、会議の中でも話し合いを行っている。	理念に掲げている「利用者の尊厳」について会議で常に話し合い、日頃のケアの振り返りを行い意識して取り組んでいる。言葉づかいや排泄誘導時の声の大きさにも留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分で意思決定が出来るような声掛けに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペース、希望に沿った生活支援に努めている。(食事の時間や場所、休憩時間など)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面、整容等その方に合わせた支援を行っている。パーマや毛染めを希望される方もあり、ご本人の思いに添った支援に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛りつけや、片付け等一緒に行っている。職員は利用者と同じ食事を一緒に食べ、時間を共有している。	外注しているが、ごはんや汁物は手作りし職員も同じ物を一緒に食べている。利用者は盛り付けや食器拭きなどできることを行っている。自分の部屋で食事をする人もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合わせた食事量、食事形態で提供をしている。食事量の少ない方には補食をしたり、水分チェックをしながら好みの飲み物やゼリー等を勧めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、その方に合わせた支援を行っている。使用する物品もその方にあった口腔ケア用品を使用している。義歯の方は、毎晩ポリドントで洗浄している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、排泄パターンの把握をしている。ご本人の仕草にも注意し、声掛け、誘導を行い、トイレでの排泄に向けた支援に努めている。	利用者の排泄パターンを把握し、利用者に合わせてトイレやポータブルでの排泄を支援している。退院後支援する中で、全身状態の改善と共にトイレでの排泄がスムーズになった人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や散歩の声掛け、乳製品等の提供をしている。また、必要に応じて下剤等でコントロールをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の思いを大切にしながら、個々に添った支援を行っている。希望に沿って清潔が保てるよう、陰部洗浄や清拭を行っている。	利用者の気分によっては時間を変えて声をかけたり、隣のユニットの協力を得て支援するなど柔軟に対応している。入浴時は一緒に歌を歌ったり話をしてゆったり楽しんで貰っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の習慣や思いを大切に、体調等その時の状況に応じて休息していただいている。夜間安心して休んで頂けるよう、お話を傾聴し、時には暖かい飲み物を提供、家族へ電話の支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の内容が分かるよう、個人の医療カルテがある。皆が確認できるようにしている。内服変更時には職員に周知し、様子観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の出来る事や楽しみを把握し個々に合せた活動の支援を行っている。家事が日課となっている方も多し。中庭でお茶を飲みながら季節を感じたり、談笑する場を設けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染予防の為、外出は中止しているが、中庭の散歩やドライブにて気分転換を図っている。8月末には駐車場で花火を楽しんでいただいた。	コロナ禍にあり自由な外出はできないが、ドライブや周辺の散策、整備した中庭でベンチに座って桜を見たりお茶を飲むなど、工夫して戸外での生活を支援している。8月にはみんな花火大会を楽しんだ。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で持っておられるかたもあるが、現在外出の機会がなく、使う機会がない。お金は事務所で預かり、必要な時に使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時、電話が出来るよう支援している。また、オンラインでご家族と交流が出来るようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や室内の明るさ等配慮し、過ごしやすい空間づくりになる努めている。季節を感じられるよう、花や壁面飾りを飾っている。庭にある山椒を採って料理に浸かったり、花を摘んで飾ることもある。	花を飾ったり壁飾りを作り季節を感じられる環境づくりをしている。ホール内の随所にソファや椅子を設置し思い思いに好きなことをして過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの色々な所にソファや椅子を配置し、好きな場所で過ごして頂けるようにしている。中庭でもゆっくり過せるようベンチやパラソルを準備している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使っておられた家具などを持ってきて頂くよう声をかけており、居心地の良い空間づくりに努めている。ご家族の写真を飾っておられる方もある。	テレビやテーブル、タンス、写真など希望の品を持参し、食事用のテーブルや転倒防止のマットを敷くなど、その人にあつたスタイルで生活できる居室作りをしている。家族の持参した花やお守りを置いている人もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示、居室に表札をかけ、分かりやすい工夫をしている。ポータブルトイレやタッチアップパー等補助具を使用し、自立した生活が送れるよう工夫している。		